

羽衣国際大学 令和六年度卒業証書・学位記授与式 式辞

本日、ここに羽衣国際大学令和六年度卒業証書・学位記授与式を挙行できますことは、本学にとつて大きな慶びです。

ただいま現代社会学部 一四三名、人間生活学部七八名、合計二二一名の卒業生に、「学士」の学位を授与致しました。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。またこのたび卒業される皆さんを育て、支えてこられたご家族や関係者の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、羽衣国際大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

また本日は、多くのご来賓の皆様にご臨席いただいております。この四年間、学生たちと大学を温かく見守ってください、年度末のご多忙の中、本日の卒業式にお越しいただきましたこと、大学を代表し、心より厚く御礼申し上げます。

本日卒業される皆さんは、新型コロナウイルスによるパンデミックの影響が残る時期に、本学に入学した学年でした。皆さんが高校三年生の時に緊急事態宣言が出され、家庭での自習や遠隔授業への対応、諸行事の中止や延期など様々な制約のなかで高校を卒業し、大学入学直後には「まん延防止等重点措置」が取られたことにより、外食や旅行が制限され、徹底した感染予防対策が続く中、新入生としての生活をスタートされました。学外活動や海外研修など多くの行事が取りやめとなり、楽しい友人との語らいもままならない、入学前に思っていた大学生活とは大きく異なる日々が続きました。ようやく対面での授業が復活したのは、入学後一年を過ぎた頃でした。

その間、親元を離れて一人暮らしをしていた方々は、特に大変な不安な思いをされたことでしょう。大学としても、想定外の事態を乗り切るために、可能な限り支援しましたが、皆さんはこの困難な状況を本当によく頑張り、今日の卒業の日を迎えられました。教職員一同敬意を表するとともに、改めてお祝いを申し上げます。

幸い皆さんの大学生活後半には、パンデミックもなんとか終息したことで、大学にもコロナ禍以前の日常がほぼ戻り、海外研修を含む学外活動においても、心に残る思い出も作ることでできたのではないかと思います。皆さんが今日手にした卒業証書には、そのような皆さん自身のご努力や思い出とともに、今日まで皆さんを有形無形に支えてくださったご家族や周りの方々のご支援と温かいお気持ちがつまっています。ぜひその方々への感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

さて、皆さんの多くは、毎日の大半を学びに充てることのできるまとまった期間を終え、社会に出ることとなります。

今年日本は戦後八〇年を迎えます。八〇年前の第二次世界大戦では、ここ堺も一九四五年三月から八月の終戦までに五回にわたる空襲を受け、なかでも七月一〇日の大規模な空襲では一八〇〇名以上の方々を命を落とされました。日本では幸いこの大戦を最後に、今日まで戦争はなく、平和が続いています。

しかし、第二次世界大戦終結以降も戦争や内戦を経験した国々は世界には数多くあります。三年前にはロシアがウクライナに侵攻し、多くの人々が戦闘や爆撃などで亡くなりました。一応の停戦となったガザ地区もイスラエルとの戦闘によって荒廃し、通常の市民生活を送ることのできない状態となっています。

さらに、昨年多くの選挙が実施された欧米諸国では、砲弾こそ飛んでは来ないものの、共存とは逆の排他的な主張が次々と勢力を拡大し、それぞれの国民のなかで分断が広がっています。

分断が広がる国の一つであるドイツでは、第二次世界大戦後の一九六一年にベルリンを東西に分断する壁が建設され、冷戦終結後の一九八九年にその壁は崩壊し、東西ドイツは統一ドイツとなりました。しかし今、再び人々の心の中に、新たな「壁」が生まれつつあります。カナダの地理学・地政学の専門家であるエリザベス・バレ氏によれば、ベルリンの壁崩壊時には一六六丁た世界各地の壁は、減るどころか一昨年の二〇二三年時点で七八にまで、むしろ増加しています。

一方で人工知能、いわゆるAIの発展は目覚ましく、私たちの生活に益々大きな利便性をもたらしつつあります。これから社会に出る皆さん以降の世代にとって、AIを仕事に活用できる能力は不可欠のものとなっています。今後技術が進み、AIがますます「人間らしく」ふるまうことが可能となり、AIが深化するこれからの時代は、これまで以上に「人間とは何か」「人類とは何か」を問い続ける時代となることでしょう。

AIを初めとする新しい技術は、便利である反面、使い方を誤れば、あるいは意図的に悪用すれば、本来の目的から外れ、社会に大きな混乱をもたらし、人を不幸に陥れます。AIは多くの情報とその分析結果を素早く提供してくれますが、その真偽や良し悪しの判断は最終的には人間の手に委ねられています。

最終的な判断を誤れば、あるいはそれを放棄すれば、容易に人々の間の分断は、取り返しのつかないほど深いものとなり、人々を隔てる物理的な壁は増え、いざれば暴力に訴える競争に発展する危険性さえ孕んでいます。私たちが学び続けなければならぬ理由と必要性は、まさにその点にあります。

ですから、これからの社会を担う皆さん方にとって、今日の卒業式は学びの最終日ではないということをご心にとどめておいてほしいと思います。むしろこれから出会う様々な喜びと共に、幾多の困難を乗り越えていくためには、日々学びを継続することは不可欠です。社会に出て、これまでの環境では出会うことのなかった人々とも出会い、自分の持つ知識が不足していることをいやおうなく自覚させられる機会もあるでしょう。しかし、そこで決してうろたえたり、あきらめたりしないでください。

私たち教職員も、この四年間、皆さんから多くを学びました。四年の間、しっかりと学び学士となられた皆さんには、社会に出てから新たな学びを積み重ねるだけの確たる基礎が備わっています。本学の建学の精神である「愛真教育を基盤とした自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」に謳われているように、真実を見極める力、そして自己と共に他者を尊重する能力を、明日からの活躍の場となる社会での活動の中で、磨きをかけてください。どうか本学の卒業生であることに自信をもつて、しかし慢心することなく、謙虚に日々歩んでいくください。

今、社会には多くの課題が山積していると同時に、皆さんを必要としている方々が大勢います。ぜひまずは周りの人々のために何ができるのか、を考えて、世界の様々な問題に思いをはせ、一日一日自分の意思で前に進み、少しずつより良い社会を築いてほしいと思います。

私たち教職員にとって、皆さんの旅立ちには名残惜しい限りですが、同時に大変誇らしく思います。これから皆さんのことをいつまでも見守っています。

皆さんが明日からの人生を、夢を持って一步一步進んでいかれることを心から祈念し、卒業式の式辞といたします。

令和七年三月一八日

羽衣国際大学学長 中川 恵